

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2020年3月6日

No.12

会社：昇給額表に基づく昇給は実施するがベアは難しい
組合：会社の考え方は到底納得できない！再考せよ！！

～2020JR総連春闘 第4回交渉報告～

中央本部は本日10時00分より「第4回交渉」を行ない、会社は現時点での考え方を以下のとおり明らかにしました。

- ①会社発展の原動力は社員一人ひとりの成長力であり、能力と意欲を最大限に発揮させることとして、生き生きと働きがいを持ち、真面目に働く社員が報われる人事制度を導入した。
- ②相次ぐ台風により大きな輸送障害が多発し、特に台風19号では社員の皆さんの尽力によりトラック代行、迂回輸送等を実施したものの、大幅な減収を余儀なくされた。
- ③今年度下期に入ると個人消費の冷え込みや海外経済の動向等の影響を受けた輸出入の低迷などにより景気は減速傾向となった。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大は当社の業績をより危機的な状況に陥らせる恐れがあり、極めてリスクが高くマイナスの影響が懸念される。
- ④中間決算では鉄道事業部門は黒字になったものの、1月期改定では営業利益の年度見通しを下方修正せざるを得ない状況となり、その修正した計画に対しても2月時点で△2.8億円と大変厳しい状況である。
- ⑤会社の基準内賃金の考え方として「業務の役割に応じた対価」であり、それは基本給と職務手当である。制度設計する際の交渉経緯から「都市手当」を基準内賃金に入れてきた。
- ⑥組合の主張を真摯に受け止め社内議論した結果、昇給額表に記載している等級及び評価に応じた昇給は実施するもののベースアップについては現時点難しい。

中央本部は会社の回答に対し、以下の通り強く指摘しました。

- ①社員一人ひとりの成長力と能力と意欲を上げて、真面目に働く社員が報われるのであれば、会社はその労苦に応えるべきである。
- ②経常利益が赤字だったころ苦しい思いをしながら我慢してきた。ベアが実施されなかった18年間で消費税が上がり物価も上昇したが、我々の賃金は上がりず、給料が安いという理由から離職する組合員が後を絶たない。
- ③職場では人事制度の不備や評価制度に対する不安から自分達の将来展望が見えずに退職を選択し、技術力をもった中堅の人たちが退職していく。経営陣はそのことを認識し、技術力流失を食い止めて企業価値を高めていくためにもベアは実施するべきである。
- ④厳しい状況だから我慢しろと言うだけであり、計画達成にむけて会社が実施する具体策が見えない。春闘は10年後の人事制度ではなく、今1年間の賃金を要求している。特にプロフェッショナル職の組合員は家族手当が基準外賃金になり収入が目減りしている。本日示された考え方は到底受け入れられない、再考を求めます。

組合の指摘に対して会社は「示した会社の考えは現時点のものであり、組合の指摘については持ち帰り、社内で議論し回答指定日までに結論を出す」と回答しました。

本日以降、山場の闘いに突入します。会社は本日の交渉においてベースアップについて「現時点難しい」との考え方を明らかにしました。ベア獲得・諸要求の実現にむけて、職場からの声をこの闘いに結集させましょう。2020JR総連春闘の勝利にむけて、中央本部は職場で働く組合員の想いに応えるため、回答指定日にむけてその最先頭で奮闘していくことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は3月13日（金）です。

以 上